桜の聖母学院新聞

発行所
福島市野田町七丁目11番1号
桜の聖母学院高校新聞部

おめでとう！80周年の卒業生

祝・桜の聖母学院高校第64回卒業式

今年で創立80周年を迎える桜の聖母学院。だが高校の今年の卒業生が第64回なのは、福島県内唯一の総合学院ならではの理由がある。1938（昭和13）年の「雛菊幼稚園」開園をもって、桜の聖母学院の発足とするからだ。戦争中の中断を経て1946（昭和21）年に、桜の聖母学院初等学校（のち小学校）が開校。その最上級生の進級に伴い、中学校、高等学校が順次設置されていった。このような歴史と伝統ある桜の聖母学院を、晴れて卒業していく3年生116名に、いま惜しみない祝福が贈られる。

学校長賞は15名に

ちょうど10年前の卒業式で初めて、本校のおおもとの創立者の名を冠した「聖マルグリット・ブールジョワ賞」が、北京オリンピック出場確実とみられていた本校水泳部の加藤和（いずみ）さんに贈られた。その年のオリンピックは惜しくも逃したが、4年後のロンドンオリンピックに福島県初の競泳代表として出場を果たし、前年の震災で傷ついた故郷福島に大きな希望を与えてくれた。

翌年からは学校長賞や皆勤賞・精勤賞も設けられ、若干の基準変更を経て、今年も15名の卒業生が学校長賞にふさわしいとされた。

学業成績部門では、共に3年3組一貫特進クラスの、仲山玲香さんと武藤のどかさん。生徒会活動部門では、会計長などを務めた斎藤友菜さんと、副会長などを歴任した宇佐美萌絵さん（共に3年4組）が受賞。

全国大会常連の部活動が増えた、文化活動・スポーツ活動部門からの受賞者は、まず卓球部でキャプテンを務めた渋谷桃菜さん（3年5組）。ソフトテニス部からも、キャプテンを務めインターハイの個人戦・団体戦で活躍した坂本暁子さん（3年4組）が受賞。

そしてサッカー部からは、浅倉千夏さん、小野彩香さん、古山あすかさん、松本晴風さん（以上3年4組）、遠藤彩香さん、小澤露佳さん、佐久間実菜さん、キャプテンの南波満桜さん（以上3年5組）の8名が選ばれた。

また、文化部のインターハイと言われる全国高等学校総合文化祭の、囲碁部門に3年連続で出場した、半田桃菜さん（3年5組）も、学校長賞に輝いた。

皆勤賞・精勤賞は次の通り（敬称略）。

【皆勤賞】
3年1組　冨塚　萌愛
3年2組　佐々木　沙也香
3年3組　志賀　みなみ
3年4組　穴見　芽衣
　　小野　彩香
　　坂本　暁子
3年5組　佐藤　真由香
　　松本　晴風
　　大室　桃佳
　　鏑城　咲弥花
　　末永　志帆
　　三浦　莉衣似
　　村松　若奈
　　茂木　なるみ
3年2組　末永　優香
　　髙野　杏奈
　　佐藤　葉月
　　鈴木　彩華
　　髙橋　咲希
3年4組　佐藤　葉月
　　新開　あかり
　　冨士川　怜奈
3年5組　小澤　露佳
　　白鳥　真由
　　八島　加奈

【精勤賞】
3年1組　加藤　真佑
　　三枝　希美

本校正面玄関前で私たちを見守る聖母子像

松本晴風さん

古山あすかさん

小野彩香さん

浅倉千夏さん

仲山玲香さん

武藤のどかさん

南波満桜さん

佐久間実菜さん

小澤露佳さん

遠藤彩香さん

斎藤友菜さん

宇佐美萌絵さん

半田桃菜さん

坂本暁子さん

渋谷桃菜さん

校歌

美しきわがまなびや
山脈はめぐりて高きその姿
黄金なすそのやすらいに
汝をば育み
黄金なすそのやすらいに
みそらはほほえむ

紙面紹介

2面●国際基督教大学キャンパス見学記
●今年度の大学受験合格体験記

「聖マルグリット・ブールジョワ賞」

学校長賞受賞の対象となった生徒のうち、特に優れた功績を残し、在学中の後輩のみならず、後年にわたって後輩の良き模範となると認められる者

「学校長賞」

高等学校在学中の学業成績・生徒会活動・文化活動・スポーツ活動において、優れた功績を残し、後輩の良き模範となる者

(1)学業成績
3学年を通して真摯に学業に臨み、各学年末評点平均が90点以上である者
(2)文化活動・スポーツ活動
部活動や校外活動において、インターハイや国体などに出場するなど著しく活躍した者
(3)生徒会活動
4期連続して生徒会役員として、積極的に生徒会活動に貢献した者
（但し、4期連続者のいない学年は、3期とする）

「皆勤賞」

3年間を通して、無欠席・無遅刻・無早退である者

「精勤賞」

3年間を通して無欠席であり、遅刻・早退の合計が3回以内の者
（但し、3年次の出欠扱いは、1月末までとする）

平成30年度入試　大学合格者数

2018年2月20日判明分

学校名	学部名	学科・専攻・コース名	合格者数
福島大学	人文社会学群	人間発達文化学類 人間発達専攻	1
高崎経済大学	地域政策学部	地域政策学科	1
青山学院大学	地球社会共生学部	地球社会共生学科	1
茨城キリスト教大学	看護学部	看護学科	1
岩手医科大学	薬学部	薬学科	1
奥羽大学	薬学部	薬学科	1
学習院女子大学	国際文化交流学部	日本文化学科	1
関西学院大学	法学部	政治学科	1
神田外語大学	外国語学部	英米語学科	1
		英米文化学科	1
		国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーション専攻	1
工学院大学	建築学部	建築デザイン学科	1
国際医療福祉大学	保健医療学部	看護学科	1
駒沢女子大学	人間総合学群	人間文化学類人間関係専攻	1
実践女子大学	食生活科学部	生活科学科食物科学専攻	1
尚絅学院大学	総合人間科学部	現代社会学科	2
上智大学	外国語学部	英語学科	1
	総合人間科学部	教育学科	1
昭和音楽大学	音楽学部	音楽芸術表現学科 ウインドシンフォニーコース	1
女子栄養大学	栄養学部	実践栄養学科	1
白梅学園大学	子ども学部	発達臨床学科	1
白百合女子大学	人間総合学部	初等教育学科	1
成城大学	文学部	国文学科	1
聖心女子大学	文学部		2
清泉女子大学	文学部	英語英文学科	1
		スペイン語スペイン文学科	1
仙台白百合女子大学	健康栄養学部	健康栄養学科管理栄養専攻	1
	人間学部	人間発達学科	1
		グローバル・スタディーズ学科	1
仙台大学	体育学部	スポーツ情報マスメディア学科	1
大東文化大学	文学部	教育学科	1
玉川大学	リベラルアーツ学部	リベラルアーツ学科	1
つくば国際大学	医療保健学部	診療放射線学科	1
		臨床検査学科	1
東京家政学院大学	現代生活学部	食物学科	2
東京女子大学	現代教養学部	コミュニティ構想学科	1
東邦大学	看護学部	看護学科	1
東北医科薬科大学	薬学部	薬学科	2
東北学院大学	経済学部	共生社会経済学科	1
	文学部	英文学科	1
東北芸術工科大学	芸術学部	美術科　版画コース	1
東北福祉大学	健康科学部	保健看護学科	2
	総合福祉学部	社会福祉学科	2
		福祉心理学科	1
東北文化学園大学	医療福祉学部	看護学科	1
東洋大学	ライフデザイン学部	健康スポーツ学科	1
	法律学部	企業法律学科	1
二松学舎大学	文学部	日本文学専攻	1
日本大学	工学部	建築学科	1
日本薬科大学	薬学部	薬学科	2
白鷗大学	教育学部	発達科学科 児童教育専攻	1
東日本国際大学	健康福祉学部	スポーツ健康コース	1
福島学院大学	福祉学部	福祉心理学科	3
法政大学	スポーツ健康学部	スポーツ健康学科	1
北海道医療大学	リハビリテーション科学部	言語聴覚療法学科	1
宮城学院女子大学	学芸学部	英文学科	1
		心理行動科学科	1
	教育学部	幼児教育学科	1
武蔵野大学	工学部	建築デザイン学科	1
	総合福祉学部	社会福祉学科	1
	人間科学部	人間科学科	1
和光大学	表現学部	総合文化学科	1

卓球部東北大会制覇

ソフトテニス部と共に全国選抜大会へ

８年ぶりの東北一に喜ぶ、本校卓球部と顧問の小林直哉先生（左端）

昨年夏のインターハイ全国大会にも、3つの競技で出場を果たした本校の運動部。3年生が引退して1・2年生の新チームで臨むシーズンの幕開けとなる、春の全国選抜大会への出場をかけた東北大会では、卓球部が8年ぶり2度目の優勝を飾って堂々の全国大会出場、ソフトテニス部も3位となって全国大会への切符を勝ち取った。

8年ぶりに東北制した卓球部

第41回東北高校選抜卓球大会は、1月26日より3日間、秋田県の秋田県立体育館で開催。本校卓球部は12年連続の出場で、8年前にはあの青森山田を決勝で破って、初めての東北チャンピオンに輝いている。

3ブロックに分かれ各ブロック6校で戦う予選リーグでは、本校は5試合中ゲームカウント3－0が3試合、3－1が2試合と、落としたゲームがたった2つという圧倒的な強さでAブロック1位となり予選を通過。各ブロックの1位で争う決勝リーグの相手は、青森県の私立五所川原商業、宮城県の聖和学園。ところがこの2校に対し本校は、共に3－1という圧巻の強さで、見事2度目の東北選抜大会優勝をとげた。

第45回全国高校選抜卓球大会は、3月25日から4日間、福井県の福井県営体育館にて開催される。ぜひこの勢いで、全国大会でも勝ち進んでほしい。

テニス部も東北3位で全国へ

全国大会常連の卓球部に続けと、ここ数年で急成長を遂げた本校ソフトテニス部。1月19～21日に、宮城県利府町の宮城総合運動公園総合体育館で行われた、第49回東北高校インドアソフトテニス大会に、ライバルの田村高校と共に福島県代表として臨んだ。

4ブロックに分かれ各ブロック3校で戦う予選リーグでは、秋田北と八戸工大一に共に2勝1敗で勝利してBブロック1位となり、決勝トーナメントへ。しかし一回戦で王者東北高校の前に0勝2敗で涙を飲んだ。

続く全国選抜大会の出場をかけて臨んだ代表決定戦では、盛岡誠桜に対し2勝0敗で勝利し、見事初めての全国選抜大会出場を決定。そして続く3位代表決定戦では、これまで何度も県大会決勝で跳ね返されてきた、宿敵田村高校との対戦となった。

第一試合は落としたものの、第二試合で角田夏歩・齋藤百優の1年生ペアが、フルセットの末に4－3で勝利して弾みをつけると、第三試合の髙橋彩寧・引地佐菜ペアが4－0で圧倒し、福島県勢では1位の東北第3代表となった。

第43回全日本高校選抜ソフトテニス大会は、3月28日から3日間、名古屋の日本ガイシホールにて開催される。まずは一勝を目指し、貴重な経験を積んできてほしい。

サッカー部も躍動！

インターハイでは一昨年から2年連続で全国大会出場を果たしている本校サッカー部だが、3年生が引退した現在部員が11名を割ってしまい、9名で臨んだ1月末の第7回東北高校新人大会では、一回戦で秋田の明桜に0－1で惜敗した。しかし連覇がかかる第2回U－18女子Jビレッジカップ2018inいわきでは、この春入学予定の新戦力を加えちょうど11名で臨み、2月18日の決勝で新庄東に2－1で勝利して見事連覇を達成した。この勢いで、ぜひ3年連続のインターハイ出場を果たしてほしい。

「キッカケLIVE」に参加して

県内の様々な高校の女子生徒が集まった、キッカケ LIVE

昨年から本校2年生も参加している、福島の女子高校生を対象にした「TOMODACHI女子高校生キャリアメンタリングプログラムin福島」。今回2年生の紹介で興味をもった1年生7名が、2月4日にいわきの東日本国際大学で開催された「2017キッカケLIVE」に参加した。普段の生活ではなかなか会うことのできない他校の高校生や東北3県出身の大学生、様々な国からの留学生や、日本や世界で活躍する先輩女性たちとのセッションを通じて、将来への視野を広げることができた。

まずグループに分かれて自己紹介やゲームをして先輩方と仲良くなり、「メンター」さんと呼ばれる各班の活動をサポートしてくれる東北出身の大学生から、「高校時代の挑戦ストーリー」を伺った。高校時代に、何かひとつのチャレンジをしたことによって自分の視野を広げられ、進路を決めるきっかけになったという。

次に、海外からの留学生による「留学挑戦ストーリー」を伺った。インドからの留学生のお話では、小学生の時にテレビで見た新幹線がきっかけで日本に行きたいと思い、東京大学に入学したという。授業に集中して、わからないことはなるべく早く解決したり、通学中の時間を使ったりして勉強していたとのことだった。この方は、好きなことを大切にすることが一番大事とおしゃっていた。

さらに社会人による「お仕事挑戦ストーリー」では、ANAの復興支援活動FLOWER JETのプロジェクトリーダーの方にお話を伺った。この方は、直感で行動してみる、挑戦するということを大切にされていた。震災時には不安を抱えながら働いていたが、乗客の方の温かい声に背中を押されたという。

最後に高校2年生から高校1年生にアドバイスがあった。短い劇をしたり紙芝居を使ったりして、あきらめずに努力することや、何よりも楽しむこと、そして挑戦する勇気などを教えてくださった。

この半日でたくさんの輝いている先輩方のお話を聞け、貴重な時間を過ごすことができた。特にお話を伺った諸先輩方から、勇気を出して挑戦してみることの大切さを強く感じた。そして勉強はもちろん、様々な活動に対する意欲が生まれた。1年生それぞれが、自分と向き合い自分の視野を広げ、一歩踏み出す大きなキッカケになった。

今年のセンター試験を終えて

進路指導部長・吉田先生に聞く

今年も1月13日（土）・14日（日）にわたって実施された大学入試センター試験だが、いよいよあと2回を残すのみとなった。今年の春に高校に入学する学年が3年生になる2020年度より、センター試験は「大学入試共通テスト」へと大きく変わる。記述式の一部導入、複数回受験、英語の外部テスト利用など、まだよくわからない部分も多い。ともあれ私たち現役の高校1・2年生は、現行制度の入試への対策が、まずは必要となる。そこで我が校の不動の進路指導部長・吉田充先生に、今年のセンター試験の特徴や、今後の対策などについてインタビューした。

Q：今年のセンター試験の特徴を教えてください。

A：今年は、平均点は例年と変わりませんでした。しかしセンター試験は、新1年生から大学入試共通テストに変わります。このテストでは思考力・判断力・表現力が大事になります。例えば英語は4技能が問われることになります。これに向けてセンター試験の出題傾向も変わってきていて、特に思考力を取り入れた問題が増えてきています。数Ⅰや化学、また地理Bで出題されたムーミンの問題もそのひとつです。来年・再来年もこの傾向はますます強まるでしょう。

Q：1・2年生がやっておくべきことはありますか。また苦手科目の克服はどうすべきですか。

A：基礎基本をしっかりやりましょう。模試にも誠実に取り組むことですね。また、1・2年生のうちに国・数・英を完璧にしましょう。特に苦手なところを集中してやるのがいいでしょう。最初から全部やろうとするのは、よくありません。スモールステップ、小さな目標を立てて成果を挙げれば、自信がつきます。苦手科目の特定の分野から絞ってとりかかりましょう。特に数学には、早めに力を入れることが必要です。

Q：今年の文理の分かれ具合はどうですか。

A：全体では理系文系が6対4で、また理系のほうが平均点は高いです。一方で本校では、理系文系が3対7くらいです。なお進路を考えるときは、興味関心だけでなく適性を考えることが大切です。理系であっても数学ができない人も見うけられます。特に理系は、能力を見極めて選びましょう。

Q：小論文への対策はありますか。

A：内容よりもまず、文を書きなれておくことが大切です。常に手書きでメモや感想を書いてみるようにしましょう。また小論文では、知識をアウトプットすることが必要ですが、そのためには日頃から、知識をインプットしておくことが大切です。読書・新聞・テレビ・ボランティア活動など、生活の一部が役に立ちます。なかでも進路イベントや社会体験をすることは、1・2年生のうちでないとなかなか難しいので、ぜひ積極的に参加してください。

Q：最後に、いま受験の正念場で頑張っている、3年生へメッセージをお願いします。

A：センター試験の結果だけでなく、プロセス、経過が大切です。残り短い受験を頑張ってください。朗報を待っています。

▼梅の花の蕾が膨らみ色をつけ、降り注ぐ日差しや風に優しさを感じるようになってきた。今年も巡ってきた、別れでもあり、同時に新しい人生へのスタートを切る、卒業の季節だ▼新しいことを始める時、誰もが何かしらの目標を立てる。後悔しないような目標を。だがどんなに備えていたとしても、時には順調に事が進まないということがある。そんな時には誰しも、あの時あのようにしていれば良かったという後悔の念が生まれる▼果たして、「後悔をしない生き方」などこの世に存在するのだろうか。実際、我が国日本も歴史上に起きた出来事により、今もなお抱える問題が数多く残されている。身近なものだと、隣国韓国との領土や植民地支配、慰安婦などといった、日韓問題が挙げられる▼1992年冬、当時首相であった宮沢喜一氏は韓国を訪れ、慰安婦問題について初めて公式にお詫びをした。その翌年、いわゆる「河野談話」が河野洋平官房長官によって発せられた。しかし、政府による謝罪が幾度も繰り返されたことに、国内では多くの批判が飛び交った。このような経緯から、この問題がいまだにくすぶり続けてしまっている▼そんな中で先月、韓国の平昌で冬季オリンピックが行われ、開会式には安倍首相が出席した。26年前と同様、国内からの強い反対を受けての訪韓ではあったが、文在寅大統領と良い関係をつくるチャンスになったかもしれない▼だが現在の日本は、韓国との問題だけでなく、様々な課題が山積している。北朝鮮とアメリカの関係が悪化し、戦争を招く事態となった時、日本はとても重要な役割を担うだろう。その際の対応こそが、鍵を握る▼過去を振り返った時、起こってしまった出来事に対して後悔をしないというのは、この日々変化している社会を生きる国々、また一般国民である私たちにとっては、困難に近いだろう▼しかし、過去を重ねてこそ現在がある。未来で同じ後悔が生まれぬよう、過去から学び、努めることは誰にでも可能だ。これからを生きる私たちに求められるのは、将来を見据えて、今をどのように生きるかである▼今日高校を卒業してそれぞれの将来へとスタートを切る3年生も、どうか失敗を恐れず、そして過去から学びつつ新たな挑戦を続けていってほしい。

はりこ

渡邊先輩の案内で行く 国際基督教大学キャンパス見学記

私立大学の最難関と言えば「早慶上智」の3校、首都圏でそれらに続くのが「MARCH」5校というのは常識だが、実は偏差値で早慶上智と並ぶ難関校にもかかわらず、なぜかこの中に入っていない大学がある。東京都三鷹市にある、国際基督（キリスト）教大学（ICU=International Christian University）だ。近年は眞子様・佳子様姉妹の母校としてますます注目されるICUの、すべてが集まる三鷹キャンパスを、クリスマス休暇中の12月27日に訪れ、4年生に在学する本校卒業生・渡邊紗緒里先輩に案内していただいた。もちろん東京への往復手段は、新聞部お得意の「青春18きっぷ」で、在来線の各駅停車を乗り継いでの日帰り旅だ。

本館前の「バカ山（左）」と「アホ山（右）」をバックに

プロテスタント系の超教派ミッションスクール

「宗教」の授業などでも学ぶ通り、世界のキリスト教はカトリックとプロテスタント、さらに東方正教会の3つに大別される。最大宗派のカトリックがバチカンを総本山とした一枚岩なのに対し、約500年前の宗教改革で登場したプロテスタントは、その中でさらに様々な教派に分かれるのが特徴だ。それはキリスト教徒が人口の1%に満たない日本でも同じで、大学によって設立した教派が異なる。仙台の東北学院大学や宮城学院女子大学は「改革派・長老派」という教派の教会による設立。青山学院大学や関西学院大学は「メソジスト派」、同志社大学は「会衆派・組合派」等々。

ところが国際基督教大学は、それら日本のプロテスタント諸教派が連携協力して戦後に設立した、いわば超教派、教派横断的なミッションスクールという、唯一無二の存在なのだ。ただカトリックとは無関係のため、本校からの指定校推薦枠などは、残念ながらない。

ユニークな学部・学科と入学試験

1953（昭和28）年に開校したICUが目指したのは、ズバリ日本において欧米型の高等教育を行う大学。日本の他大学と大きく異なる特徴は、「リベラルアーツ」と呼ばれる教養学部1学部のみの構成（ゆえにUniversityというよりむしろCollegeに近い）に加えて、ELA（English for Liberal Arts）という、入学後2年間にわたって行われる、徹底した英語の授業だ。

かつてはその上の3～4年生で6つの学科に分かれたが、2008年からこれらの学科を「アーツサイエンス学科」一つに統合した上で「メジャー（専修分野）制」を導入。学生は3年次に進級する際に、31ものメジャー（専修）の中から自分のメジャーを選ぶが、これだけなら他大学の専攻と変わらない。最大の特徴は、二つのメジャーを選べる「ダブルメジャー」、あるいは主専修と副専修を選べる「メジャーマイナー」といった取り方を可能にしていること。ラーメンとカツ丼のセットというと例えが悪いが、大谷翔平選手の二刀流を学問の世界で目指すといえばわかりやすい。意欲と向学心溢れる学生にとってはうってつけのしくみだが、実際はこの二刀流なかなか難しく、多くの学生が「シングルメジャー」にするそうで、渡邊先輩も物理メジャーのみの専修とのこと。いずれにせよ、入学後にじっくりと自分の専門分野を選べるのが、この大学の大きな特色だ。

さらに特徴的なのは、他の難関大学との比較を難しくしている要因ともされる、独特の入試。一般入学試験のA方式とB方式に共通する試験科目「ATLAS（総合教養）」は、2015年から導入。最初に15～20分ほどの講義を聴いて、それを元に40～45問の設問に答える。またA方式の試験科目「人文・社会科学」と「自然科学」は、ICU教授が執筆した10ページ前後の日本語の論文を読んで問いに答えるというもの。すべてマークシートだが、高校で履修する複数の教科や科目にわたる知識が問われるため、受験生はICU専用の対策が必要になる。もちろん英語力も必須で、A方式ではリスニングを含む英語が、B方式ではIELTS（アイエルツ）やTOEFL（トフル）といった国際基準の英語検定のスコアによる選考が課せられている。成り立ちだけでなく、中身までも徹底した独自路線を貫き続ける大学なのだ。

ICU非公認名所「バカ山」と「アホ山」

JR新宿駅から中央線快速で西へ約30分、都心の喧噪を離れベッドタウンの様相を見せる武蔵野市の、武蔵境駅で下車。路線バスに乗り換え15分ほど走ると、東京ドーム13個分の広大なICUキャンパスに入っていく。正門にもバス停があるが、終点はさらに奥のロータリー。どこまでがキャンパスかもわからない緑豊かな敷地の中に、高くても3階建て程度の施設が散在する。渡邊先輩曰く、敷地が広いので高層にする必要もないとのこと。手つかずの森には多くの野生生物が棲息し、生物系をメジャーとする学生には格好の実験場となっていて、都内とは思えない自然環境だ。

常に笑いの絶えない渡邊紗緒里先輩

バカ山の上から「Girls, be ambisious！」とばかり熱く私たちに呼びかける渡邊先輩

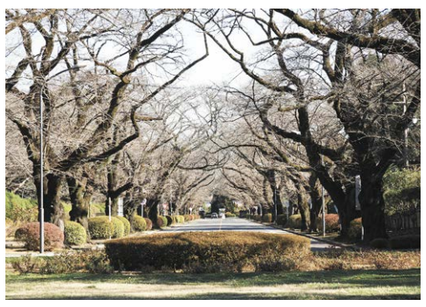
この敷地内に、多くの学生が住む学生寮もあり、新しい寮も次々と建設されている。しかも寮母さんが常駐し、他大学（特に国立大学）の寮に比べはるかに清潔で安心。さらに敷地内には教員とその家族用の一戸建て住宅が点在し、学生を招いて食事会や読書会を行う「オープンハウス」という伝統もあるという。この日はあいにく休暇中で、帰省した学生や教員も多く人影はまばらだったが、時々自転車に乗った先生とおぼしき外国人にも遭遇した。まさに欧米の大学キャンパスが、東京郊外にそっくり移転してきた感覚だ。

ところで今回ぜひ訪れたかったのは、もちろん大学当局はこの名称を認めていない、キャンパス中心部の「バカ山」「アホ山」。本館前に広がる梅林の庭を造成した時に出た土を盛った、なだらかな丘のことで、学生にはこの通称で親しまれており、ビザの宅配もこの地名で届くという。日当たりがよく、つい授業をサボってここで寝てしまう学生が、単位を落として留年するという言い伝えからついた名前で、福島は大雪だった年末のこの日でさえ、寝転がっても本当に快適だった。渡邊先輩も何度もここで寝たことがあるそうだが留年もせず、就職先は見事あのJAXA（宇宙航空研究開発機構）に内定しているので、必ずしも言い伝え通りというわけではないようだ。

その渡邊先輩は、幼稚園から高校までを桜の聖母学院で過ごした、バイタリティーの塊のような先輩で、ICUキャンパスは、太平洋戦争中の戦闘機工場の跡地につくられたそうです。正門から大学の建物がある場所までの約1kmは、元の滑走路を利用した直線道路（写真）。春にはピンクのトンネルができる、都内でも有数の桜の名所です。1973年当時、武蔵野の雑木林や畑が大学周辺に点在し、東京とは思えないような環境でしたが、大学構内はさらに人がまばらでした。

私が入学した当時、帰国子女などを除き1年生全員がフレッシュマンイングリッシュプログラムというコースを履修しました。おかげで英語の単位が30単位ほどになり、幸か不幸か専攻とかかわりなく、私は英語の教員免許を取得することができました。

入学した年に大学は学費の値上げを発表し、これが学生たちを大いに刺激して、学費値上げ反対闘争が起きました。当時は1960年代後半の過激な学生運動を経験した先輩たちが在学しており（ICUは1960年代後半の学生紛争時代に、日本で最初に機動隊を学内に導入した大学なんです！）、大学当局と学生側との対立はかなり深刻なものでした。今考えると、この闘争は貴重な経験だったと思います。



ICUは大学では珍しく3学期制で、GPA（評定平均のようなものです）もすでに取り入れられていました。平均3・0以上（ちなみに満点は4・0）だと、「Bアベ（成績が平均B以上）」といい、次の学期は15単位を越えて単位を履修することができ、逆に平均1・5以下だと「ローグレ（成績不良）」。これを3学期連続してしまうと、強制的に退学となりました。ちなみに私は5年間在学しましたが、どちらの経験もない珍しい学生でした。

私は人文学科に入学しましたが、旧約聖書を専攻して卒業論文を書くなどとは、夢にも思っていませんでした。卒論は赤面するばかりの内容でしたが、旧約聖書学を専攻することで、キリスト教や比較文化、歴史学、社会学などの様々な視点で物事を考えることを学びました。入学後に専攻を決める制度のおかげで私は視野を広げることができた、と時々思うことがあります。

大学を出て40年、3年生の時に取った大学院の「比較文化」の授業のことを、ふと思い出しました。大塚久雄先生という、歴史学の泰斗の前で課題文献のレポーターを務めましたが、その時の先生の刺すような視線に、学問の厳しさを悟らずにはいられませんでした。それ以降あのような厳しい目でにらまれたことは、なかったかもしれません。

5年間過ごしたICUは、私の人生を左右する場所でもありました。知的探究の場として数多くの「未知との遭遇」を経験した場所であり、一生語り合える友との出会いを提供してくれた場所でもあったのです。

私の学生時代　竹田洋二（ひろつぐ）先生の巻

国際基督教大学の学籍番号（ID番号）は、先頭の二桁の数字がその学生の卒業予定年を示しています。創立当時の一期生から現役生に至るまで、ICUに在学した者にとってはIDの最初の二桁が、同じ時代に同じキャンパスで青春を共有したことを認識するキーワードとして、記憶に刻まれているようです。

1973年入学の私のIDの先頭は「77」でした。同じIDの同期生は300名足らず。4年後予定通りに卒業した学生は、およそ半数。残りは5年以上大学に通ったわけです。当時ICUは、日本でも有数の留年率の高い大学でした。私が入学した時に4年生で、卒業する時にもまだ在学していた猛者もいました。

ICUキャンパスは、太平洋戦争中の戦闘機工場の跡地につくられたそうです。正門から大学の建物がある場所までの約1kmは、元の滑走路を利用した直線道路（写真）。春にはピンクのトンネルができる、都内でも有数の桜の名所です。1973年当時、武蔵野の雑木林や畑が大学周辺に点在し、東京とは思えないような環境でしたが、大学構内はさらに人がまばらでした。

私が入学した当時、帰国子女などを除き1年生全員がフレッシュマンイングリッシュプログラムというコースを履修しました。おかげで英語の単位が30単位ほどになり、幸か不幸か専攻とかかわりなく、私は英語の教員免許を取得することができました。

入学した年に大学は学費の値上げを発表し、これが学生たちを大いに刺激して、学費値上げ反対闘争が起きました。当時は1960年代後半の過激な学生運動を経験した先輩たちが在学しており（ICUは1960年代後半の学生紛争時代に、日本で最初に機動隊を学内に導入した大学なんです！）、大学当局と学生側との対立はかなり深刻なものでした。今考えると、この闘争は貴重な経験だったと思います。

ICUは大学では珍しく3学期制で、GPA（評定平均のようなものです）もすでに取り入れられていました。平均3・0以上（ちなみに満点は4・0）だと、「BアベA（成績が平均B以上）」といい、次の学期は15単位を越えて単位を履修することができ、逆に平均1・5以下だと「ローグレ（成績不良）」。これを3学期連続してしまうと、強制的に退学となりました。ちなみに私は5年間在学しましたが、どちらの経験もない珍しい学生でした。

私は人文学科に入学しましたが、旧約聖書を専攻して卒業論文を書くなどとは、夢にも思っていませんでした。卒論は赤面するばかりの内容でしたが、旧約聖書学を専攻することで、キリスト教や比較文化、歴史学、社会学などの様々な視点で物事を考えることを学びました。入学後に専攻を決める制度のおかげで私は視野を広げることができた、と時々思うことがあります。

大学を出て40年、3年生の時に取った大学院の「比較文化」の授業のことを、ふと思い出しました。大塚久雄先生という、歴史学の泰斗の前で課題文献のレポーターを務めましたが、その時の先生の刺すような視線に、学問の厳しさを悟らずにはいられませんでした。それ以降あのような厳しい目でにらまれたことは、なかったかもしれません。

5年間過ごしたICUは、私の人生を左右する場所でもありました。知的探究の場として数多くの「未知との遭遇」を経験した場所であり、一生語り合える友との出会いを提供してくれた場所でもあったのです。

大学受験 現役 合格体験記

この新聞発行の時期の都合上、一般受験も含めたすべての結果を掲載できないのは残念だが、既に合格を決めた3年生の方々の声を紹介する。後輩の皆さんは、これら先輩方の貴重なアドバイスを参考に、今後の高校生活を過ごしていただければ幸いである。

氏名（出身中）
合格大学・学部・学科
【受】受験方式
【動】志望校を決めた動機
【勉】高校時代にこころがけた勉強方法
【活】高校時代、勉強以外に打ち込んだ活動
【桜】桜の聖母学院で学んでよかったこと
【後】後輩へのメッセージやアドバイスなど

菅藤美佳（福島市立信陵中）
【国】福島大学人文社会学群人間発達文化学類人間発達専攻

【受】センター利用推薦
【動】将来特別支援学校教員を志望しており、オープンキャンパスに参加した際に教員になるための実戦的な学習ができると知ったため。さらに担任の先生からセンター利用推薦があることを教わったから。
【勉】暗記科目は、問題と答えを覚えるまでひたすら書いて覚えた。苦手な数学は、テスト前に同じく数学が苦手な友人に教えることで、自分の理解が深まった。
【活】吹奏楽部を、3年生の7月の引退まで続けた。少人数ではあったが、定期演奏会や大会、学校行事などを全員で協力し、工夫を凝らした。観客から拍手をもらった時は、大きな達成感を得ることができた。
【桜】大学進学アカデミックコースだったが、3年次からは国公立特進インテンシブコースの人たちと一緒の課外を受け、受験対策を行えたこと。
【後】私は高校入学時に、特進コースを受験しましたが落ちてしまい、大進コースで3年間過ごしました。しかし大進コースでも、十分に国公立大学を目標に努力し、合格できます。将来の自分をしっかりイメージし、辿り着くにはどうすればよいかを考えることが大切です。大進コースで国公立大学を目指す人も、諦めず挑戦してください。

森彩花（桜の聖母学院中）
【公】高崎経済大学地域政策学部

【受】公募推薦
【動】元々は保育士志望だったが、行政の立場から待機児童の問題などの解決に携わりたいと思うようになったため。また拡大している地域格差に歯止めをかけ、活気あるまちづくりを実現することにかかわっていきたいと考えたから。
【勉】勉強がとことん嫌いだったが、自分なりにまとめることが好きだったので、どの教科でもそのようにしていた。満足感が得られるが、結果がついてくるかどうかは保障しません。
【活】勉強よりも、部活や外部の活動に力を入れた。特に全国の高校生が集まるプログラムなどに参加すると、自分の物の見方や考え方、視野に広がりを感じ、自分自身を豊かにすることができた。
【桜】英語科クラスでは5科目の英語の授業で、語彙力だけでなく、文法、コミュニケーション、ライティングの力などを身につけられた。
【後】大学に推薦で行きたい人も、一般で行きたい人も、まだ進路が決まらない人も、まずは自分磨きから始めてみましょう。1年後、2年後に皆さんが受験を目の前にした時、それに立ち向かうのは自分です。その時に、経験や努力、自信が武器になってくれるはずです。今挑戦したいことに、積極的に取り組んでみてはどうでしょうか。

堀金あずさ（桜の聖母学院中）
【私】上智大学外国語学部英語学科

【受】カトリック高等学校対象特別入試
【動】母国語である英語を生かし、故郷アメリカについてもっと詳しく学びたいと思ったから。上智は留学生も多く、国際的なので私にはぴったりだと思った。
【勉】定期試験の勉強は、自分が理解できるまで復習した。受験のためには毎日必ず英単語を勉強し、エッセイも何枚も書いた。電車やバスの移動時間には、単語帳を読むことが多かった。
【活】ダンス同好会の部長を務めた。私たちの代は人数が一番多く大変だったが、多人数をまとめるという部長ならではの経験ができた。
【桜】英語科クラスの英語は、1・2年生では比較的易しいが、3年生になると結構難しかった。レベルの高い英語を学ぶことで、自分の英語力も上がった気がする。
【後】私も去年の今頃は、焦っていました。カトリック高校特別入試は、評定が4・0以上ないと受けられなかったので、定期試験の点数をとても気にしていました。苦手な教科もありましたが、小テストなどで平常点がとれれば何とかなりました。時間はあっという間に過ぎていくので、皆さんも一分一秒を無駄にせず、有効に使ってください。

坂井美咲（桜の聖母学院中）
【私】神田外語大学外国語学部英米語学科

【受】指定校推薦
【動】中学生の時のホームステイ経験を機に、国際系の進路に進みたいと思った。神田外語大では英語はもちろん他の言語や文化も学ぶこともでき、留学制度も充実しており、さらに外国人の先生が多く学生との距離が近いため、日常的に外国語や異文化に触れる環境があることで選んだ。
【勉】定期試験前には、特に細かなところまで見直し、確実に理解できるまで勉強した。部活の大会が定期試験の前後にあることが多かったが、逆算して早めに試験対策を始めることを心がけ、部活と勉強を両立させるようにした。
【活】新体操部に所属し、2年の新人戦からは団体競技のキャプテンを務め、東北大会へ出場することができた。技術面だけではなく、仲間と協力し合う大切さを知り、弱い自分に負けない心を養うことができた。
【桜】進路について親身になって考えてくださり、「○○に向けて勉強したい」などと相談すると、それに合った資料や参考書などを教えていただき、勉強のサポートをしていただいた。
【後】勉強することも大切ですが、今の高校生活を存分に楽しんでください。高校生活は人生で一度きりしかありません。自分の将来をしっかり考えながら、友人との時間を大切にし、興味を持ったことにはどんどんチャレンジしてください。

八島加奈（福島市立第四中）
【私】上智大学総合人間科学部教育学科

【受】カトリック高等学校対象特別入試
【動】所属したインターアクト部の活動の中で、教育について関心を持つようになり、教育学的視点から世界の現状や課題を学ぶことができる上智大学で、専門的な知識や国際感覚を養いたいと考えたから。
【勉】授業ではノートをとることに夢中になり過ぎず、先生の話をしっかり聞くことを心がけた。そして予習復習に力を入れた。英検に向けては、毎日短時間でもコンスタントに勉強した。
【活】生徒会活動。リーダーシップだけではなく、縁の下の力持ちとして、一歩引いて冷静に全体を支えることも身に付けられた。
【桜】進路に迷ったり、心配になったりした時に、親身になって相談にのってくれる先生方のもとで学べること。生徒一人ひとりを大切にする教育。
【後】桜の聖母には、求めれば答えてくれる先生方、背中を押してくれる先輩方もいます。安心して部活動や趣味、勉強などに挑戦してください。挑戦したことがきっかけで将来の夢に近づいたり、視野が広がり自分の力になったりします。高校生活を積極的に楽しんでください。

柳沼朱理（桜の聖母学院中）
【私】青山学院大学地球社会共生学部地球社会共生学科

【受】自己推薦
【動】学校行事「錬成会」や、インターアクト部の活動を通し、世界で起こっている紛争や貧困問題について知り、将来このような問題を解決できる人になるには、この大学のこの学部しかないと思ったから。
【勉】電車通学だったので、電車内での隙間時間には英単語などを勉強した。
【活】インターアクト部の活動、仮設住宅や津波被災地の訪問、国際理解研修、募金活動など、たくさんの充実した活動を経験できた。桜華祭では手作りミサンガを売って、売上金を「フリー・ザ・チルドレン・ジャパン」に寄付した。
【桜】キリスト教の精神。聖書には心に響く言葉がたくさんあり、辛いときには救われた。自分と考え方の違う他者とのかかわり方を、学ぶことができた。
【後】桜の聖母では、学習面だけでなく精神面も学ぶことができます。辛い経験も、自分自身を成長させるためには大切です。どんな事も恐れずに、一歩を踏み出してください。乗り越えられない壁はありません。目の前のやるべきことに対し、最後まで諦めずに頑張ってください。

志賀みなみ（桜の聖母学院中）
【私】女子栄養大学栄養学部実践栄養学科

【受】指定校推薦
【動】スポーツ関係の授業もあり「実践すること」を大切にしている学校に魅力を感じたから。
【勉】朝型だったので、夜は早く寝て、朝に早く起きて勉強した。定期試験までを逆算して、計画的に勉強に励んだ。
【桜】陸上部の部活動。
【活】自分とは異なる考え方を持つ先生方や友人との出会い。それを素直に受け入れることで、心身ともに成長することができた。
【後】定期試験や小テストで、コツコツと努力してください。特に部活動をしている人は、できる限り最後まで諦めずに、勉強との両立を目指して頑張ってください。今できること、やらなければならないことに、全力で取り組んでください。

編集後記

★東京に行けなくて髪の毛が抜けるほど悲しかった…次は絶対に行く！（ハゲ山）
▲東京取材に、今シーズン初のインフルエンザで行けなくて悔しい　（立子山）
♠スロバキアのチーズとワイン最高だった！あ、匂いがってことね（安達太良山）
♪東京の電車の中で、イケメン外国人に囲まれて幸せだった。ヤバい？（信夫山）
◆東京のリンガーハットは格別だった。次は本場のちゃんぽんを！　（花見山）
●ICUはとても綺麗でしたが、私は行けたとしても行きたいとは思いませんでした　（フジ山）
♣渡邊紗緒里先輩の優しさは、お土産に持たせてくれたドーナツだった（磐梯山）
☀ICUでは、附属のハイスクールから入学することを「ハイ上がり」、そういう人を「ハイ生（せい）」と呼ぶのだそうだ（宝の山）
♥バレンタインデーにクッキーいっぱい作ろうと思った取材だったが、学校閉鎖で渡せなかった（青葉山）
★新年度にあたり、新入部員募集中！ただし人数限定につき、入部審査あり…なんちゃって　（霊山）

大切な写真は
●広々とした空間を持つ —ファミリースタジオ—
●緑に包まれた —ガーデンスタジオ—
●絵画が楽しめる —サロンスタジオ—
PHOTO SALON
わが家のメモリーアート
ワタナベスタジオ
〒969-1612 福島県伊達郡桑折町字西大隅3-13
TEL0245-82-3152 FAX0245-82-3622

コックさんのからあげ屋
野田町店
当店
桜の聖母学院高校
サーパス野田町
からあげ・各種弁当・お惣菜
TEL 024(533)0330
FAX 024(597)6772

新学期に向けてスタートダッシュ！
参考書フェア
辞書・電子辞書ご相談下さい。
文化情報発信館
西澤書店
大町店　福島市大町7-20　Tel.024-522-0161　Fax.024-522-4139
北　店　福島市南矢野目字中江12-5　Tel.024-557-5101　Fax.024-557-5107

感動のそばに、いつも。JTB
この春JTBは生まれ変わります！
2018年4月より下記にてお申込を承ります。
—団体旅行—
㈱JTB福島支店
〒963-8004　福島県郡山市中町10-14　和久屋ビル2階
TEL　024-932-0657　FAX　024-933-6620
営業時間 9:30～17:30（土・日祝休業）
—グループ・個人旅行—
㈱JTB福島イトーヨーカドー店
〒960-8068　福島県福島市太田町13-4　イトーヨーカドー福島店1階
TEL　024-531-3090　FAX　024-531-3088
営業時間 10:00～19:00（イトーヨーカドーの休館日休業）

創業明治38年（1905年）
地域と共にさらなる1世紀へ
ISO 9001
ISO 14001
認証取得
総合建設業
㈱利根川組
代表取締役　利根川　靖幸
本　社
福島県伊達市霊山町掛田字本山57番地1
TEL:(024)-586-3121
FAX:(024)-586-3122
URL:http://www.tonegawagumi.jp/
整備工場
福島県伊達市霊山町字本山56番地
TEL:(024)586-3181